

日刊県民福井

2020年11月17日（火）5面に掲載

小浜・江古川の輪中堤整備 県産材使った工法実演

県木材利用研究会が見学

小浜市江古川地区で整備中の輪中堤工事。軟弱地盤を補強するための断面の土間伐材を二本柱で地中に打ち込む県産材の工法が採用されている。16日に現場で、県木材利出研究会の合同見学を実施した見学会があった。

輪中堤は川川の氾濫による洪水から住宅などを守るため、集落を囲むように設けられる堤防。江古川地区は江古川の氾濫による浸水被害が頻発しており、県内唯一の輪中堤整備を進めている。堤防には盛り土の部分とコンクリートの部分があり、総延長約五百六十メートルで事業費は九億円。二〇二二年度の完成を目指す。

間伐材の打ち込みは盛り土の部分で実施。水かさが多い土間に丸太を差し込み、堤防の土台となる地面を強化する。当初は六角の丸太を二本柱で予定だったが、県産材として丸太の丸太を二本柱で確保することが難しく、四角のものを二本柱で現場で組み立てる工法に変更。工費全体で六十以上上の丸太を使うとい

見学会では作業が完了した一、打設用の重機などで一本目の丸太を打ち込んだ後、倉庫の傍かすがいで二本目を挿入。四柱は三日を離れて地中十二メートルまで丸太を挿しこんだ。今後、縦一・五メートルで打ち込まれた丸太の上に土多盛り、高さ二メートルの堤防を造っていく。

県の担当者は「二本柱でなくとも、産材利出材の大量活用が可能になり、林業の活性化にもつながる」と話した。（鏡村隆一）



スペースの間に伐材を二本柱で地盤を補強する工法。小浜市江古川地区で

株式会社 AB コーポレーション